１－３　簿記の５要素とP/L・B/Sの関係

【重要性：A】

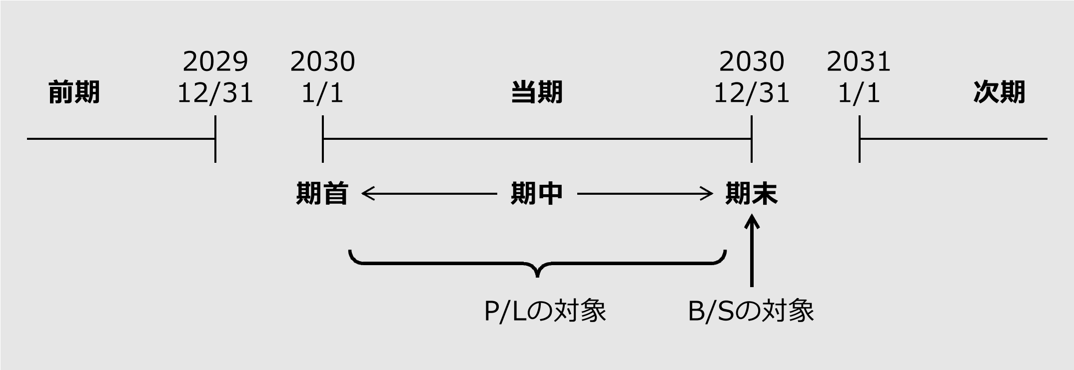
ＰＯＩＮＴ！

簿記の５要素とP/L・B/Sの関係を覚えよう！

（１）会計期間

簿記は、お店や会社の経営活動を一定の期間に区切って、経営成績や財政状態を記録します。この一定の期間を**会計期間**（または、**会計年度**、**事業年度**）といいます。全商簿記３級では主に個人商店を前提としますので、暦どおり１月１日から12月31日までの１年間が会計期間となります（なお、会社は自由に会計期間を決めることができます）。

会計期間の始めを**期首**、会計期間の終わりを**期末**（または、**決算日**）、期首と期末の間を**期中**といいます。現在の会計期間を**当期**、当期より一つ前の会計期間を**前期**、当期より一つ後の会計期間を**次期**（または、**翌期**、**来期**）といいます。



（２）損益計算書と貸借対照表

損益計算書（P/L）とは、**一会計期間**において、どれくらい儲かったのかという**経営成績**を表す報告書です。したがって、個人商店の損益計算書は１月１日から12月31日という**期間が対象**となります。

貸借対照表（B/S）とは、**期末**において、現金、商品や土地といったものがどれだけあるのか、銀行からどれだけお金を借りているのかといった**財政状態**を表す報告書です。したがって、個人商店の貸借対照表は、期末である12月31日という**一時点が対象**となります。

（3）簿記の５要素と損益計算書・貸借対照表との関係

資産、**負債**、**純資産**は**財政状態**を表す要素ですので、**貸借対照表（B/S）**に記載します。また、**収益**、**費用**は**経営成績**を表す要素ですので、**損益計算書（P/L）**に記載します。

貸借対照表の**左側に資産**を、**右側に負債・純資産**を記載します。ここで、貸借対照表の左側の合計金額と右側の合計金額は必ず一致します（**資産＝負債＋純資産**）。貸借対照表は左側と右側が一致（バランス）しますので、バランスシートというのです。

損益計算書の**右側に収益**を、**左側に費用**を記載し、収益と費用の差額で**利益**を算定します（**収益－費用＝利益**）。なお、利益は収益と費用の差額であり、簿記の５要素ではありません。

貸 借 対 照 表

資　産	**負　債**
	純資産

損 益 計 算 書

費　用	**収　益**
（利　益）	

Point!　簿記の5要素がB/S・P/Lの右か左のどちらに記載されるかを覚えよう！

１－４　勘定

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　借方と貸方を覚えよう！

②　勘定記入のルールを覚えよう！

（1）勘定とは？

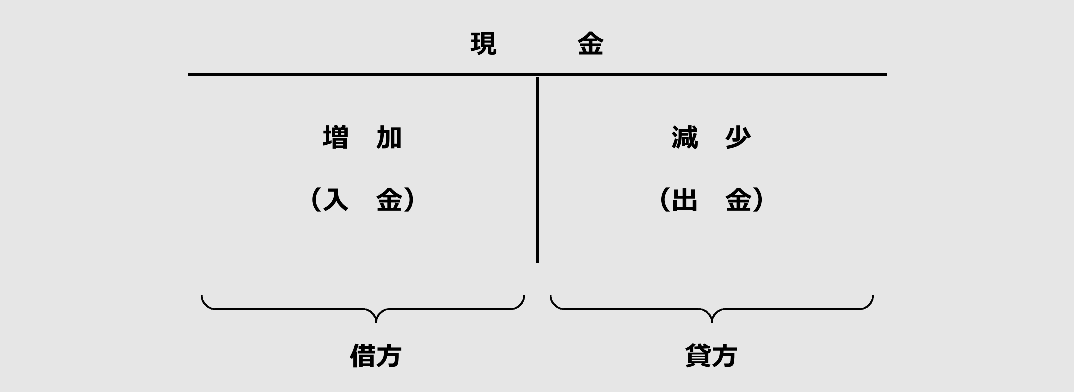
　勘定とは、日々の経営活動である<u>取引を記録する表</u>であり、**勘定口座**ともいいます。勘定には資産・負債・純資産・収益・費用の増加と減少を左側と右側に分けて記入します。これにより、それらの増加及び減少、さらには残りの金額（**残高**といいます）を記録します。勘定にはその内容がわかるように<u>具体的な名前</u>をつけますが、その名前を**勘定科目**といいます。

　例として、現金勘定を示します。正式な勘定の形式は以下です。

現　　金

日付		摘　　要	仕丁	借　方	日付		摘　　要	仕丁	貸　方

　また、アルファベットの「T」の形をしているT勘定という簡略版の勘定で示しますと、以下のようになります。現金の増加（入金）は左側、現金の減少（出金）は右側に記入します。なお、簿記では<u>左側のこと</u>を**借方**、<u>右側のこと</u>を**貸方**といいます。



Point!　借方の「り」と貸方の「し」に着目して、借方が左、貸方が右と覚えよう！

（２）勘定記入のルール

各勘定への記入は、簿記の５要素に関連して記入のルールが決まっています。

貸借対照表と損益計算書の**左側（借方）**に記載される**資産・費用**については、**増加は左側（借方）**に、減少は右側（貸方）に記入します。貸借対照表と損益計算書の**右側（貸方）**に記載される**負債・純資産・収益**については、**増加は右側（貸方）**に、減少は左側（借方）に記入します。

貸借対照表

資　産	**負　債**
	純資産

損益計算書

費　用	**収　益**
（利　益）	

資産の勘定

増　加	減　少

収益の勘定

減　少	**増　加**

負債の勘定

減　少	**増　加**

費用の勘定

増　加	減　少

純資産の勘定

減　少	**増　加**

Point!　P/LとB/Sに記載される側が、「増加の記入側」と覚えよう！

第１章　簿記の基礎①　問題

問題1-1　以下の①から⑤にあてはまる語句を記入しなさい。

貸 借 対 照 表

①	②
	③

損 益 計 算 書

④	⑤
利　益	

問題1-2　以下の①から⑩に、その勘定の借方または貸方へ増加したときに記入される場合には「増加」、減少したときに記入される場合には「減少」と記入しなさい。

資産の勘定

①	②

負債の勘定

③	④

純資産の勘定

⑤	⑥

収益の勘定

⑦	⑧

費用の勘定

⑨	⑩

第１章　簿記の基礎①　答案用紙

問題1-1

①		②		③	
④		⑤			

問題1-2

①		②		③	
④		⑤		⑥	
⑦		⑧		⑨	
⑩					

第１章　簿記の基礎①　解答解説

問題1-1　**解答**

①	資　産	②	負　債	③	純資産
④	費　用	⑤	収　益		

問題1-1　**解説**

貸借対照表の借方（左側）に資産、貸方（右側）に負債、純資産を記入します。また、損益計算書の貸方（右側）に収益、借方（左側）に費用を記入し、収益から費用を差し引いて利益を算定します。

貸 借 対 照 表

<table>
<tr><td rowspan="2">① 資　産</td><td>② 負　債</td></tr>
<tr><td>③ 純資産</td></tr>
</table>

損 益 計 算 書

<table>
<tr><td>④ 費　用</td><td rowspan="2">⑤ 収　益</td></tr>
<tr><td>利　益</td></tr>
</table>

問題1-2 **解答**

①	増　加	②	減　少	③	減　少
④	増　加	⑤	減　少	⑥	増　加
⑦	減　少	⑧	増　加	⑨	増　加
⑩	減　少				

問題1-2 **解説**

資産・費用は増加は借方（左側）に、減少は貸方（右側）に記入します。また、負債・純資産・収益は増加は貸方（右側）に、減少は借方（左側）に記入します。

資産の勘定

①増　加	②減　少

負債の勘定

③減　少	④増　加

純資産の勘定

⑤減　少	⑥増　加

収益の勘定

⑦減　少	⑧増　加

費用の勘定

⑨増　加	⑩減　少